

中広中学校だより

平成24年1月16日(月) NO. 14

校 訓 ・ ・ ・ 清 純 ・ 平 和 ・ 希 望

学校教育目標 ・ ・ ・ 「心身ともに健康で、社会に役立つ自主的行動のできる生徒を育成する」

広島市立中広中学校

平成24年を安全で健康である「歳」に！

新しく年が明けました。今年もよろしくお祈りします。昨年は、3月11日の東日本大震災が、文字通り日本中を大きく揺るがした年となりました。いまだに避難生活を余儀なくされている方、行方の分からない多くの方々がおられます。あらためて亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、1日も早い復興を祈念したいと思います。

「1年の計は元旦にあり」という諺(ことわざ)があります。その意味は、新しくことを始めるときは、最初が肝心で大切ですよという意味です。また、「初心、忘れるべからず」という諺は、物事に慣れ、怠け心を起こしたり、うぬぼれたりしてはいけないという戒めの諺とされています。年の初めにあたり、改めてこうした言葉の意味をかみしめ、先人の知恵を生かしたいものです。

いずれにしても、安全・安心で心の健康を含めた広い意味での健康が保たれないと、毎日がメリハリのある、生き生きとした生活にはなりません。中広中学校も生徒一人一人が安全・安心で健康に学校生活を送れるよう教職員一同、今年も努力してまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



42日・50日です。



(昨年の正門横の桜 ↑)

上の日数は、何を表す数か分かりますか？実は、42は3年生が1月16日以降、中広中学校で過ごす残りの中学校生活の日数。50日は1・2年生が同じく現在の学年を修了するまでの中学校生活の日数です。特に3年生はこの間に2月3日の選抜Ⅰ・私学推薦入試と2月14・15・16・17日の私学の一般入試、3月7・8日の選抜Ⅱの受検が含まれていますので、クラス全員そろっての授業日は、実質ではもっと少なくなります。どの学年も次の新しいスタートへの準備をこの間にしなければなりません。けがや病気、かぜやインフルエンザにかかることなく、中学校生活のまとめ、学年のまとめをすることで、来るべき新しいスタートの準備としましょう。

不審者対応について、ご協力ありがとうございました

先週1月11日に発生した吉島刑務所からの逃亡事件につきまして、容疑者逮捕に伴い、13日の夕刻、教育委員会からの緊急対応事項は解除されました。この間、地域・保護者をはじめ、各方面から早朝からの見守りや朝夕の送迎などについて、ご協力・ご支援いただきました。おかげで、子どもたちの安全が確保できましたことに対し、厚く感謝申し上げます。

今回は、その都度学校の対応について、保護者の皆様には子どもたちを通じてプリントにてお知らせし

ました。メール配信は当初不調でしたが、12日からは配信できるようになり、プリントを合わせて配信させていただきました。今回は、すべてのご家庭に確実に学校の対応をお知らせする趣旨から、プリントによる配布を優先いたしました。今後も緊急時は緊急電話連絡網の利用、プリント配布、メール配信等を効果的に活用したいと思っております。

学校経営計画（第一次案）について

学校は例年、年度末へ向け、その年度のまとめを行うとともに、次年度の目標を作成します。裏面にかけて学校長から教職員へ示した平成24年度の学校経営の第一次案を載せております。保護者の皆様方におかれましても、お気づきやご意見がございましたら、学校へその思いをお寄せ下さい。学校・保護者・地域の三者の連携・協力の中で子どもたちの豊かな成長が育まれることが重要です。校長談話室なども活用いただいて、遠慮なくご意見をお聞かせ下さい。よろしくお願い申し上げます。

以下から裏面に、現状の分析と課題、平成24年度中広中学校学校経営全体構想図を紹介します。

1 現状の分析と課題

(1) 学力の向上

本校の基礎・基本定着状況調査はここ数年通過率において、徐々にですが、上昇傾向にあります。特に平成23年度は国語・数学が広島市の平均を上回りました。また、通過率30%以下の割合が国語1.1%（対前年比-1.5%）、数学5.4%（〃-1.2%）、英語8.7%（〃-0.6%）と減少してきている点も成果のひとつです。

しかしながら、各教科とも通過率が30%を下回る数値の減少が求められます。国語においては、少人数指導が定着してきています。数学は昨年度後期から短学活で取り組んだ成果が見られました。英語においては、領域のバランスは良い状況です。学習習慣においては、家庭学習の取組の成果が少しではあるが見えつつあります。

平成23年7月の学校評価から、授業開始時に本時の目標を提示しているもの87%、振り返りシートを活用しているもの93%と高く、ICT（パソコン、電子黒板、大型ディスプレイなどの情報機器）活用・週末課題を定期的に課しているものが50%代と低迷しています。家庭学習については、その時間数において子どもたちへのアンケートによると、数パーセント昨年同期よりも減少している実態がありました。

(2) 豊かな人間性の育成

あいさつは学校評価において、生徒86%・保護者75%が肯定的に捉えている結果がアンケートから伺えます。しかしながら、授業開始・終りの挨拶において、机の整理・整頓や服装・身構えが揃わないまま始まる例も見られます。

本年度、掃除を学習・自己研鑽・修養の場として黙動を基本とした取組を行っていますが、子どもたちへのアンケートにおいては、全学年では肯定的ではあるものの、ポイントとしては低い評価となっています。防犯教室などの情報選択スキル向上の取組は計画通り実施することができました。

(3) 信頼される学校づくり

本校は4月の横川ふしぎ市をスタートに数多くのボランティア参加が成されてきています。参加数も年ごとに増加し、学校協力者会議や地域での諸会議においても、高く評価いただいています。このことは、子どもたちへのアンケートの84%という高い数値からも確認できます。この他にも、学区町民親善大運動会・地域清掃ボランティア・ふれあいコンサート・公民館祭りなど、多くの地域と連携した活動が展開されてきています。